

カワヒバリガイ



カワヒバリガイ(*Limnoperna fortunei*)は中国原産の淡水生二枚貝で、現在は東アジアの各国と南米にまでその分布が広がっています。国内では1990年に西日本で初めての報告があり、2005年以降、関東各地でも広く報告されるようになりました(下図参照)。

この貝は足糸とよばれる糸で固い基質に付着する性質を持つため、水利施設のパイプやフィルターなどを詰まらせるなど人間生活へ悪影響をもたらすことで知られています。また、侵入先の在来種生物相に影響を与えることが懸念されており、国内でも宇治川の天ヶ瀬ダム下流域でのオイカワなどの魚の大量死の原因がカワヒバリガイを中間宿主とする吸虫であることが分かっています。このことから、カワヒバリガイは許可のない飼育や輸入・移動が禁じられる「特定外来生物」に指定されています。

淡水産外来無脊椎動物の生息地は川の水系ごとに孤立しているので、普及啓発によって分布拡大を止められる可能性も高いと考えられます。分布拡大のモニタリング活動を普及し、共通の方法での調査や分布状況の公開などを行う仕組みをつくらうと勉強会を企画しました。

外来生物の分布拡大調査に興味を持っておられる個人や団体の市民の方、研究者、行政関係の方はご参加ください。分布拡大阻止と侵入前の警戒のため、特に未分布地域の方の参加もお待ちしています。

外来生物の分布拡大調査に興味を持っておられる個人や団体の市民の方、研究者、行政関係の方はご参加ください。分布拡大阻止と侵入前の警戒のため、特に未分布地域の方の参加もお待ちしています。

2008年 11月9日(日) 利根川河口堰管理事務所

〒289-0611 千葉県香取郡東庄町新宿 2276

JR 成田線下総橋駅 2km, 利根川大橋の東側

茨城県道・千葉県道 260号



利根川水系におけるカワヒバリガイ分布図

<プログラム>

午前 10時開始

・趣旨説明

・カワヒバリガイの生態

木村妙子・三重大学

・関東圏のカワヒバリガイの分布と生息状況について

伊藤健二・農業環境技術研究所

・カワヒバリガイの寄生虫について(検査方法についての解説も含む)

浦部美佐子・滋賀県立大学

午後 黒部川・利根川にて現地見学。 伊藤健二・農業環境技術研究所

*現地見学は場所によってはぬかるんだ水辺で行います。昼食のほか長靴や、天候により雨具などを各自でご用意ください。

案内者： 伊藤健二・農業環境技術研究所

主催： 外来生物分布拡大予報研究会

横浜国立大学 グローバルCOE 「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」

申し込み： 定員30名、無料。

氏名、連絡先、所属団体(もしあれば)などの情報を添えて下記までお申し込みください。

小池文人, 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-7 横浜国立大学環境情報研究院

Fax・電話 045-339-4356 koikef@ynu.ac.jp

お知らせホームページ(外来生物分布拡大予報研究会) <http://vege1.kan.ynu.ac.jp/forecast/>

今後の勉強会の予定： 第3回 都市海岸の海産外来無脊椎動物(貝類、甲殻類など) 2009年春、案内者：岩崎敬二・奈良大学
第4回以降 フロリダマミズヨコエビ、外来カワリヌマエビ(ミナミヌマエビ)、タイワンシジミ、外来ブラナリア など